

## 大韓民国釜山市

### ■調査項目

釜山朝鮮通信使歴史館について

- ・調査対応者  
なし

- ・調査期日  
平成28年4月3日(日)午後3時～午後5時

- ・市の概要  
人口：356万人

- ・調査目的

呉市は古くから瀬戸内海の海上交通の要衝として栄えた街である。

特に下蒲刈島は、江戸時代に朝鮮通信使が漢城から江戸に向かう行程の中で、浅野藩の接待所があった場所である事から、当時の朝鮮通信使に関する資料を多数展示した松濤館(朝鮮通信使資料館)がある。

釜山市は朝鮮通信使の朝鮮における日本への出港地で、誰にでも面白く理解できるように作られた歴史教育施設である朝鮮通信使資料館がある。

同じ資料館を比較検討することにより、松濤園をより充実した資料館とするための一助とする。

- ・調査内容

資料館は2階建てで、通信使の説明や行程、目的などを図解、模型、アニメーションで紹介している。通信使の行程は分かりやすく展示されているが、模型は特に目を引くものはなかった。子供にも理解しやすいようにアニメーション映像を多く取り入れており、規模は小さいながらそれなりに工夫はされていた。

#### 【呉市での展開の可能性】

資料館の規模は松濤園が大きく展示物も充実しており、残念ながら参考とすべきものはあまりないようであった。

しかし、子供の目線に合わせた3D映像やアニメーションによる映像は、家族連れの観光客や小学生の教育の場としての役割を充実させ、来館者の増加に大いに役立つものと思われる。

## 大韓民国昌原市

### ■調査項目

第一副市長及び市議会議長への表敬訪問と鎮海軍港桜まつりの視察について

- ・調査対応者  
なし

・調査期日

平成28年4月4日（月）午前11時～午後4時

・市の概要

人口：108万人

・調査目的

呉市は平成11年海軍士官学校や多くの軍施設を備える拠点軍港都市であり、造船、機械部品の製造など呉市とよく似ている鎮海市と姉妹都市提携を行った。

鎮海市が平成22年に昌原市と馬山市と合併し、昌原市となってからも姉妹都市提携は続いていたものの、国際情勢等の事情から平成22年を最後に行政・議員交流は途絶えていたが、国際情勢も改善に向かい平成27年に昌原市第一副市長が下蒲刈島で開催された朝鮮通信使再現行列に正使役として参加されたことから、6年間途絶えていた議員交流を再開し姉妹都市としての友好親善に努めるものである。

日本ではお馴染みの桜の花見を、大韓民国では軍港を中心に鎮海軍港桜まつりとして開催しているが、異国での花見を検証することにより、呉市の春の催しの参考とするものである。

・調査内容

昌原市を公式表敬訪問し、昌原市パク・ジェヒョン第一副市長以下市の幹部と面談する。

第一副市長面談後、昌原市ユ・ウオンソク議長を表敬訪問し、昌原市議会を視察する。

定例議会・臨時議会合わせてほぼ毎月議会を開催している。

議員には二人で一室の研究室があるが、一人一室にして議員活動がさらに努力できる環境づくりを計画していることや、委員長にも委員長室を設けるなど、議会の権威は日本より高いようである。

パク・ジェヒョン第一副市長や昌原市議員を交えた昼食会や、鎮海区長主催の晩餐会が開催されるなど、友好的な対応であった。

旧大日本帝国海軍の軍港に植えられていた桜を、大韓民国海軍が軍港を引き継いだ後、その桜を市内にも移植したものであるが、現在では鎮海区全体で約20万本に増え、街路樹を始め山道なども見渡す限り桜の名所となっている。

さくらまつりは満開の季節である4月1日から4月10日までの期間軍港を中心に催され、その期間道路は慢性的な大渋滞となり、軍港施設も会場として開放し、会場の一部に当たる駅では列車も止めるなど鎮海区全体を会場とした大事業である。

【呉市での展開の可能性】

訪問は終始友好的に行われ、下蒲刈で開催される平成28年度の朝鮮通信使再現行列には、昌原市から訪問する予定である旨の表明があるなど、姉妹都市として友好親善の成果はあったものと思う。今後も姉妹都市としての交流が復活できる糸口となったものと思う。

鎮海区の軍港桜まつりは、軍港と市内の桜名所を一体的に会場として開催するもので、呉市においても海上自衛隊施設と市内の桜の名所を一体的に、市内全域を会場として実施すれば、市外からも観光客を呼べる新しい観光産業になると思う。

## 大韓民国釜山市

### ■調査項目

#### 釜山新港施設について

・調査対応者  
なし

・調査期日  
平成28年4月5日(火) 午前10時～午後0時

・市の概要  
人口：356万人

・調査目的  
釜山新港は北東アジアのメガハブ港を目指し、国を挙げて日本や中華人民共和国需要を的確に見据え、ハード・ソフト両面で整備を進め、将来の貨物需要と更なる国際的地位向上を目指し整備を進めている。

このような大規模な国際的整備事業を研修することにより、これまでと視点を変えた斬新な呉市の基盤整備の参考とする。

・調査内容

釜山新港の埠頭数は8埠頭、29バース、10,050mを計画している。

取り扱うコンテナは1,600TEUで、これを体積で見ると6億2400万 $m^3$ となり、東京ドーム503.2倍もある、世界第5位のコンテナターミナルである。

コンテナの積載等は全てコンピューター管理で行っており、作業は24時間体制で行う日本には例を見ない大規模なコンテナターミナルであるが、事業費は、全体で約3兆円と大規模なコンテナターミナルにもかかわらず格安である。

韓国では国家事業には漁業補償はかからないなど、強引な開発が可能であることが要因である。

### 【呉市での展開の可能性】

直接当該施設の事業を取り入れることは出来ないが、大胆な発想とどこにも負けまいとする気概から、短時間のうちに目的を達成していった。このような姿勢は大いに参考とすることが出来る。

このような姿勢は、呉市においても事業を推進する基本理念として参考とするべきものである。